
id外伝 ~ a miracle week of boy and girl (少年と少女の奇跡の一週間)

白紅茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラゴンボールVivid外伝〜a miracle week
of boy and girl（少年と少女の奇跡の一週間）

【Nコード】

N1324X

【作者名】

白紅茶

【あらすじ】

次元犯罪者を追跡する高町なのはは巨大な次元の穴に呑み込まれて…。これは現在連載中のドラゴンボールVividの外伝小説です。本編より過去の話なのはと悟飯は子供です。

ブローグ

「レイジングハート、追いかけて!!」

『all right!』

上空で叫ぶ少女の掛け声と共に桜色の羽が舞い落ちる、空気を突っ切って前進する彼女の瞳に写るのは一人の次元犯罪者。身を包むフードによって体格などの特徴は掴みにくいが図体から男である事は掴める。不気味な雰囲気を取り持つ男は彼女から逃れるように空中を駆け抜けていた。

時は闇の書事件終結後、数ヶ月の時間が過ぎ去り平和な日々を送っていたなのはに時空管理局からある一つの指令が下ったのだ。その指令は何ら難しい物ではない。警察的機能を持つ時空管理局の仕事としてよくある「犯罪者逮捕」である。なのははその指令を受けて今、逃走する次元犯罪者を捕縛しようとレイジングハートと共に宙を舞っているのだ。

（早く捕まえないと、フェイトちゃん達のことにも気になるし……。）

この命令を受けた者は彼女だけではない、フェイト・T・ハラオウンもまたその一人。彼女は別の次元犯罪者を追跡している。

その事がなのはの不安を掻き立てて焦りを生み出している原因の一つでもあった。やがてなのはは男を路地裏にまで追い詰め、そして魔法を唱える。

「武器を納めてください……！」

『Restrict Lock。』

「この私を追い詰めるとは……正直、子供と思って油断していたよ。」

捕獲魔法レストリクトロック、その魔法を唱えた直後に桜色に輝くリング状の拘束具が相手の身動きを封じようと出現する。

だが反して男は抵抗する事もなくなのはの拘束魔法によって簡単に封じられてしまふ、諦めが付いたような態度を取る男の顔色はなのはからは窺えない。

取り乱す事も無ければ抵抗する事も無い、ただ沈黙が場を支配する。同時に男の崩れない冷静さを目の当たりにして逆になのは自身が男に緊張感と焦りを生じさせていた。

「……確かにこのままだと捕まってしまうな。だから、これの力を使わせてもらおう。」

「え……？……ロストロギア！？」

辛うじて動ける右手から取り出したのは蒼色に煌く宝石、なのはにとって最も見慣れた宝石の一種。口角を吊り上げ不気味に笑う。

「そうだ、この力さえあればこの世の全てを自由自在に操れる。」

男が発する言葉の意味を知るなのは表情は一変、彼女の足元に魔方陣が浮上すると同時に　　突拍子も無く次元に歪みは起きた。それはハッキリと視界に映る形で現れ、男の持つロストロギアを中心にして渦巻く漆黒の闇が出現したのだ。

闇は空間を蝕むように膨張していき、上空から照らす月光を反射させる事も無く飲み込んでいく。戸惑いの色を浮かべる男は栗を開いた。

「バカなっ!?!　空間に穴があいただと…!」

「ロストロギアが…どうなってるの……きゃっ!」

空間の穴である漆黒の闇は周辺に存在するチラシやゴミ等を見境なく吸収していく、その途方もない吸収力によってなのはは一気にバランスを崩して尻餅を付いてしまう。

咄嗟に彼女の視界に入り込んだ建物を支える為にあるであろう柱に、両手ですがみ付いて抵抗を試みるも空間を蝕む闇はその吸収力の強さは増していく。

「…ぐっつッ!」

「っ、っ……きゃあああ!」

遂に男は漆黒の闇へと吸い込まれ、柱にしがみ付いていたのはも限界を感じ柱に伸ばす手を放してしまう。

悲鳴を上げながらレイジングハートと共に暗闇だけが広がる一面の闇へと吸い込まれ、二人を吸い込んだ空間の穴は何事もなかったかのように消滅する。

再び沈黙が流れる路地裏は闇が吸収しようとしたチラシが行方を失う宙を散乱し、何かが起きたという痕跡を残す奇妙な風景へと成り代わっていたのだった。

プロローグ（後書き）

悟飯「更新が遅くなってすみません。外伝の方は本編の合間に挟んで更新していきます。」

なのは「こちらのお話は、今連載しているドラゴンボールVividのわたしこと、高町なのはと孫悟飯くんとのお会いの物語です！本編で謎だったことも外伝の方で明かされますのでお見逃しなく！」

悟飯「本編の方もよろしくお願いします！」

第1話 不屈の魔法少女と心優しきサイヤ人の少年

「お母さん、お爺ちゃん、いつてきます!」

「お昼までには帰ってくるだよー!ーっ!」

世界の命運を懸けたセルゲームが終了してから一年が経とうとしていた。

あれから一度だけ地球の存続を廻る大きな闘いがあったが、孫悟飯を始めとしたZ戦士の活躍によって再び平和を取り戻したのだ。

「もうすぐボクがお兄ちゃんか…」

舞空術で飛行してパオズ山の奥へと向かいながら、悟飯は少し前の出来事を思い返す。

二度目の闘い…ボージャック一味との死闘を終えて間もない頃、母親のチチが妊娠したのだ。

それはセルゲームで命を落とした父親の孫悟空が残した形見。弟ができるのは悟飯にとって嬉しいことなのだが、内心では複雑な気持ちもあった。

「見えてきた……ん? 空に穴があいてる…」

上流の川が見えて降下しようとした直前、少し離れた前方の空に漆黒の空洞が映る。

穴の正体が気になった悟飯は再び上昇して禍々しい穴の元へと向かうのだった。

「んう……あれ？　ここ何処なの？」

次元の穴の中へと吸い込まれたのはが目を覚ますと、全体が青空
いっぱい広がっていた。

吹き抜ける風が肌に触れて寒さを感じる。そこでようやく自分が仰
向けの体制のまま落下していることに気づく。

「ふええええええつ！！？　レ、レイジングハート！」

更に変身も解除されて防護服ではなく私服姿。慌てて自身のデバイ
スである赤い宝玉を手にとって掲げようとするが。

「……えつ？　嘘っ！？　レイジングハートがない！」

首元に掛けてある筈の赤い宝玉がなく、混乱に陥る。その状況の中、
無情にも落下の速度は止まらない。

このまま地面に激突すれば間違いなく死に至るだろう。万が一生き
延びられても重傷を負う事は明白。

「きゃああああああああああっつ！！！」

（助けて……おとーさん、おかーさん……ユーノくん、フェイトちゃん
……。）

家族や友人に助けを求めるが此処は異世界。なのは自身も来ることはないとは薄々と感じている。

それでも、脳裏には彼女の大切な人達の姿が浮かびあがり涙を流す。後は激突する瞬間を待つしかなかった。

が、しかし何時まで待ってもその瞬間は訪れない。もうとつくに激突しても不思議ではないのだ。

ふと背中を何かに支えられている感覚を覚える。疑問に感じて閉じていた瞼をゆつくりと開くと。

「もう大丈夫だよ。」

「ふえ？……うん！」

視線の先にはあどけない笑みを浮かべた少年の姿があった。その笑みを見て安堵したのか彼女も満面の笑みを少年に返す。

これが不屈の心を持つ魔法少女、“高町なのは”と心優しきサイヤ人の少年“孫悟飯”の出会いであり、物語の始まりである。

第1話 不屈の魔法少女と心優しきサイヤ人の少年（後書き）

初めまして！黒紅茶様の代理執筆をすることになりました白紅茶です。

黒紅茶様のように文章は上手くありませんが、構想から雰囲気を残せるように頑張りますのでどうかよろしく願います。また、この話は黒紅茶様が執筆している本編の複線にも繋がっています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1324x/>

ドラゴンボールViVid外伝～a miracle week of boy and girl（少年と少女の奇跡）

2011年11月4日15時18分発行